

なぜ、旧システムが業績を鈍化させるのか？ **100億企業のシステム再構築**  
 ~2025年の崖を乗り越え、企業競争力を高めるDX戦略を描く~

このようなお悩みはありませんか？

- システム課題① 基幹システムが老朽化しているため、新たなシステムへの刷新を検討したい
- システム課題② 将来の業容の拡大に向けて、今のシステムや業務を見直したい
- システム課題③ 現在のシステム構成や業務フローが最適なのか判断がつかずわからない
- システム課題④ システムのブラックボックス化や担当者が不在のため継続的なシステム利用が不安
- システム課題⑤ 部分最適なシステムを見直し、データの一元管理や業務プロセスを標準化したい



セミナー内容

第1講座	<b>100億企業になるためのシステム課題</b> ●年商20億円~50億円で、業績を鈍化させる旧システムの壁 ●中小企業が、DX企業改革が進まない社内抵抗勢力の壁 ●持続的2ケタ成長と、生産性向上を実現させるシステムのあり方		株式会社船井総合研究所 上席執行役員 オファリング統括本部 本部長 <b>杉浦 昇</b>
第2講座	<b>100億企業になるためのシステム再構築</b> ●売上最大化に向けた全社シナジーを生むためのデータ統合戦略 ●情報の上流から下流を意識したシステム再構築のポイント ●クラウドファーストで実現させる変化に強いシステム戦略		株式会社船井総合研究所 執行役員 DX支援本部 本部長 <b>清尾 修</b>
第3講座	<b>業績を加速するCRM戦略</b> ●100億企業化への事業シナジーを生むための攻めのCRM活用 ●営業管理の仕組化を実現させるシステム×データ活用戦略 ●CRMシステムを活用し人を増やさず売上を1.5倍にしたCRM戦略		株式会社船井総合研究所 DX支援本部 リーダー <b>小牧 大介</b>
第4講座	<b>DXによる業務プロセス改善</b> ●部門最適から全社最適へ導くシステム再構築のステップ ●まず着手すべき現状の業務・システム可視化分析方法 ●システム再構築で生産性向上を目指すためのグランドデザイン		株式会社船井総合研究所 DX支援本部 マネージャー <b>吉本 直史</b>
第5講座	<b>本日のまとめ</b> ●システム再構築成功のために取り組むべきこと		株式会社船井総合研究所 執行役員 DX支援本部 副本部長 <b>片山 和也</b>

開催日時 **東京会場 2025年7月1日(火)** 船井総研グループ 東京本社 サステナグローススクエア TOKYO  
 〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー35階  
 JR「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)、東京メトロ丸の内線「東京」駅 地下直結(八重洲地下街経由)  
 各日程 12:30~16:30 (受付開始:講座開始時刻30分前~)  
 諸事情により、やむを得ず会場を変更する場合がございますので、会場はマイページにてご確認ください。また最少催行人数に満たない場合、中止させていただく場合がございます。高、中止の際、交通費の払戻し手数料等のお支払いはいたしかねますので、ご了承ください。

お申込み期日 銀行振込み:開催日6日前まで クレジットカード:開催日4日前まで ※祝日や連休により変動する場合がございます。  
 受講料 一般価格 税抜10,000円(税込11,000円)/一名様 会員価格 税抜8,000円(税込8,800円)/一名様  
 ※会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧FUNAIメンバーズPlus)へご入会中のお客様のお申込みに適用となります。

お申込み方法

**【QRコードからのお申込み】**  
右記QRコードからお申込みください。

**【PCからのお申込み】**  
https://www.funaisoken.co.jp/seminar/129470  
船井総研ホームページ(https://www.funaisoken.co.jp)の右上検索窓に「129470」をご入力し検索ください。

【お問い合わせ先】船井総研セミナー事務局 E-mail seminar271@funaisoken.co.jp TEL 0120-964-000(平日9:30~17:30)  
 ※よくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。 ※お電話・メールでのセミナーお申込みは承っておりません。

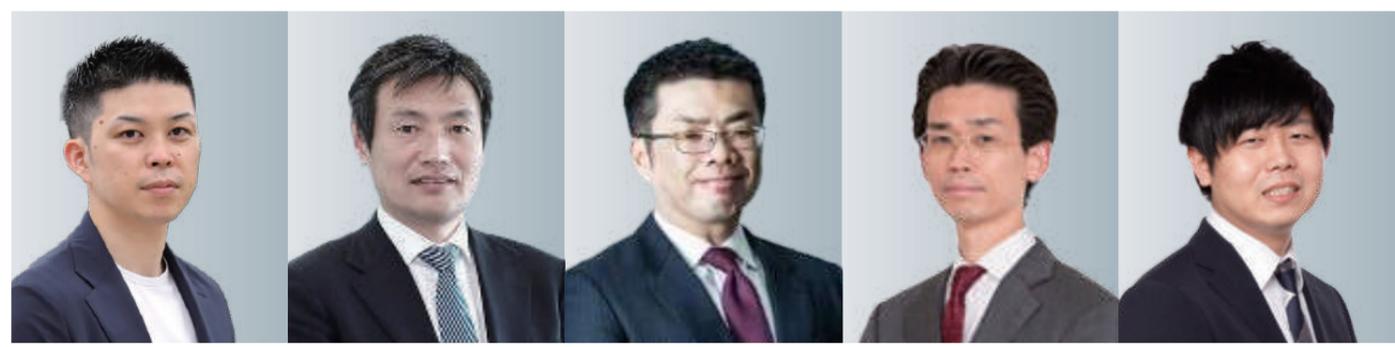
なぜ、旧システムが業績を鈍化させるのか？

# 100億企業になるためのシステム再構築

## 経営改革サミット2025

### ~クラウド×AIのシステム革命~

サステナグロースカンパニーをもっと。 **Funai Soken** **ズバリ提言!!**  
 DXコンサルタント



船井総合研究所 マネージャー 吉本 直史  
 船井総合研究所 執行役員 清尾 修  
 船井総合研究所 上席執行役員 杉浦 昇  
 船井総合研究所 執行役員 片山 和也  
 船井総合研究所 リーダー 小牧 大介

システムを再構築して **生産性向上×高収益企業**

100億企業に向けたシステム再構築 経営改革サミット2025 お問い合わせNo.S129470

主催 サステナグロースカンパニーをもっと。 **Funai Soken**  
 株式会社船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜4-4-10 船井総研大阪本社ビル

当社ホームページからお申込みいただけます。船井総研ホームページ[www.funaisoken.co.jp]右上検索窓に「お問い合わせNo.」を入力ください。 129470

## ～はじめに～

企業の成長戦略において、

**ITシステムの役割は重要性**を増しています。

**100億企業への成長を目指す上で  
ITは戦略的な要素として捉えるべきです。**

しかし、**多くの企業がシステムの老朽化、複雑化、  
部門最適化によるデータ分断**といった課題に直面し、  
そのポテンシャルを十分に発揮できていない状況が散見されます。

本セミナーでは、これらの課題を解決し、

**100億企業への成長を加速させるためのIT再構築戦略**を  
具体的な手法や事例を交え解説します。

自社で運用しているシステムにこんなお悩みをお持ちではないでしょうか。



- システムが老朽化しているため、  
新たなシステムへの刷新を検討したい
- 複数事業、あるいは複数企業の  
データ・システム統合をしたい
- 現在のシステム構成や業務フローが、  
最適なのか判断がつかずわからない

上記自社のシステムにお困りの皆様は、  
ぜひセミナーにご参加ください!

本レポートでは、セミナーで解説する  
主なポイントについてお伝えさせていただきます。

### ■旧システムがもたらす課題と成長阻害

「2025年の崖」問題が指摘される中、**老朽化・複雑化が進んだシステムは、  
企業の成長を制約する要因**となり得ます。

変化への対応が難しくなり、業務効率の低下、データ活用の遅延を招き、企業の成長を  
阻害する可能性があります。

特に、保守・運用サポート終了を迎えるようなシステムを使い続けることは、**セキュリティ  
リスクの増大**だけでなく、**ビジネス機会の損失**にもつながりかねません。部分最  
適で導入されたシステムによる**データ分断や連携不足は、全社的なデータ活  
用を妨げ、迅速な経営判断を遅らせる要因**となります。

#### 【老朽化や部分最適なシステム導入による課題】

 **データ分断**  
データ分断と連携不足は、全社的なデータ  
活用の妨げになり、可視化が難しい。

 **遅れた意思決定**  
必要なタイミングで必要なデータ把握や分  
析が難しく迅速な経営判断が困難になる。

これらの課題は、企業規模が大きくなるほど顕著になり、100億企業へのスケールアップを  
阻む大きな要因となります。

その結果、システムの見直しが求められているのです。

### ■システム再構築による経営革新と期待される効果

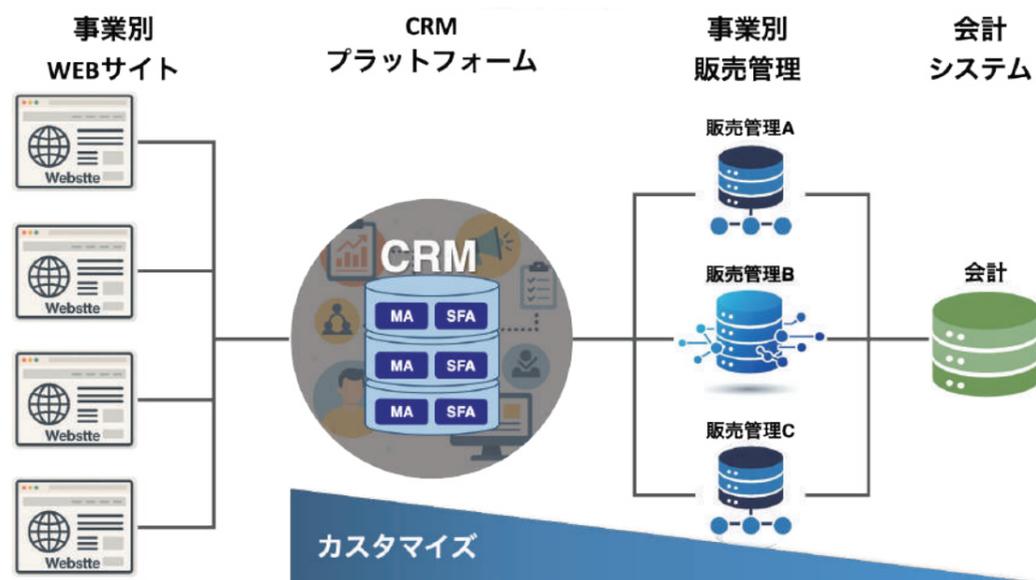
システム再構築は、単なるITシステムの更新や変更にとどまらず、企業の成長を促進する  
経営改革の機会となります。

業務効率化とコスト削減をはじめ、**データドリブン経営の実現、顧客体験価値  
(CX) 向上とLTV (顧客生涯価値) 最大化、新規事業創出と市場変化  
への迅速な対応、内部統制とセキュリティレベル向上**など、多岐にわたる  
効果が期待できます。

システム再構築を通じた業務プロセス標準化と無駄の排除は、**業務効率化とコスト削減**に繋がり、**CRMと基幹システムの連携による顧客データ活用は、顧客生涯価値の指標であるLTVの最大化**にもつながります。

このような効果的なシステムにしていくために、特に多角化経営をしているような企業の場合には、**フロント領域のCRMはローコード/ノーコードでカスタマイズ**しつつ、受注後の販売管理や会計のシステムは標準的な導入を目指していくことで**自社の事業成長に見合ったシンプルなシステム構成であることが重要**です。これにより、データ管理の一元化は、経営データの可視化にも貢献し、データ主導な経営管理にもつながります。

### データの流にそってシステム導入・構成を設計することがポイント



### システム再構築における抵抗勢力の克服と推進の要点

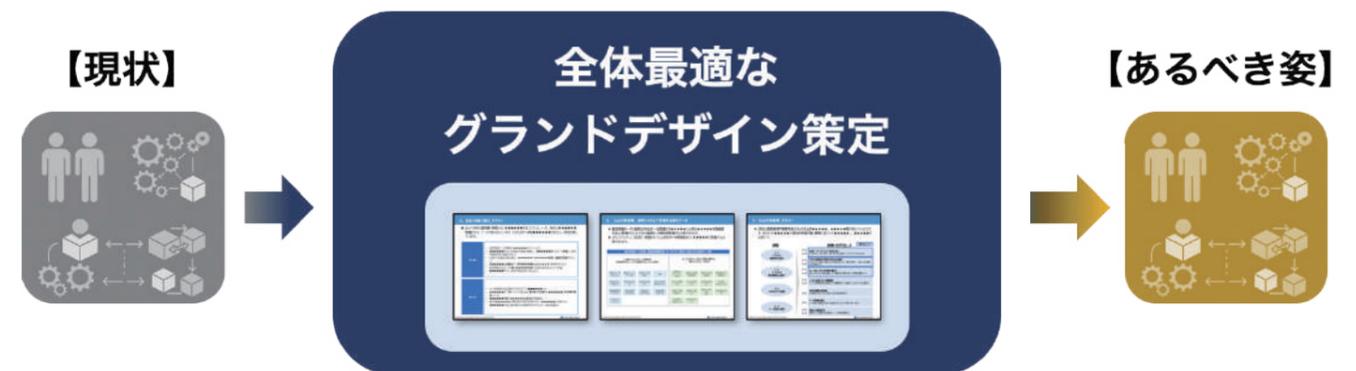
システム再構築は、**組織や現場業務にとって大きな変化**であり、様々な課題に直面することがあります。例えば、これまでのやり方や**仕事の進め方を変えることを嫌う**ことやデータ入力業務の業務負荷、システム化・自動化によって「**自身の仕事なくなる**」という恐怖心から**抵抗**する可能性があります。そのため、**経営層が中心となって応援し、強いコミットメントが重要**となります。

また、プロジェクト責任者は情報システム部門だけでなく、事業部門責任者や経営企画部門責任者など、経営に近い人物が務めるべきであり、各部門から若手のエース級人材をアサインするなど、適切なプロジェクト体制を構築することが成功の鍵となります。そして、関係者全員が**プロジェクトの目的や方向性を認知・理解することが非常に大切**です。そのための重要なプロセスが、**グランドデザインの策定**になります。

### 全体最適を目指すグランドデザイン策定

システム再構築成功のためには、**関係者間の連携と共通の目標が不可欠**であり、グランドデザイン策定は、システム再構築の要件定義に進む前の極めて重要なプロセスです。

グランドデザインの策定を通じて、**目指すべき企業の姿とITシステムの方向性**を明確にし、業務プロセスを可視化・改善し、最適なデータ活用の方向性とシステムを選定します。それによって自社で共有すべき目的と、目指すべき将来像(ToBe像)を共通言語化し、**プロジェクト全体の拠り所**につながります。システムはあくまで目的ではなく手段であるため、**社内に対して共通理解を促す明確なあるべき姿がシステム再構築の鍵**を握ります。

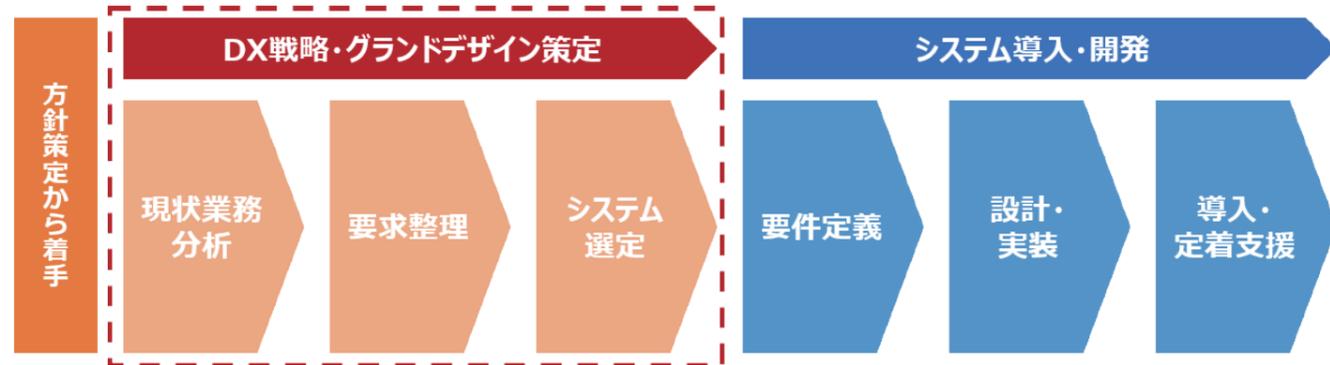


また、システムの観点だけではなく、**現状の業務プロセスをフロー図等を用いて可視化**し、既存の業務工程から見直しを図ることが重要となります。システム選定では、**部分最適ではなく全体最適の視点**を持ち、将来の拡張性や柔軟性を考慮します。

一般的なシステムの要件定義から着手するのではなく、**上流工程であるグランドデザイン策定に時間をかけ、全社的な合意形成を図る**ことで、手戻りや炎上といったリスクを回避し、導入されたシステムが最適化されることを目指します。システム再構築を**単なるIT導入ではなく、組織全体の改革**として捉え、その第一歩が、グランドデザインの策定になります。

## 【システム再構築の実践ステップ】

グランドデザインの策定を含めてシステムの再構築は、主に以下のステップで進めます。



### ～グランドデザイン策定フェーズ～

- ① **現状業務分析**: 自社の業務フローからシステム利用状況を把握し、解決すべき課題を分析を通じて明確化する
- ② **要求整理**: 改善に向けて経営層、現場の課題解消に向けた改善すべき要求の内容を整理し、自社が改善すべき方向性を策定。
- ③ **システム選定**: 課題の解決や導入可否を検討し、全体最適な視点から自社に合うシステム候補を選定。

①～③を通じて、**システム全体の構成や機能、導入ロードマップ策定**

### ～システム導入・開発フェーズ～

- ④ **要件定義・設計**: 導入するシステムに求める機能・非機能の要件を定義
- ⑤ **導入・テスト・移行**: 要件を満たし、稼働に問題ないか、既存のデータを移行しつつシステムの実装に向けた工程
- ⑥ **運用・保守・改善**: 安定稼働するために不具合や改善を実施し、必要に応じた機能改善を行う

## ■ 持続的成長に向けたシステム戦略

今後のシステム戦略では、基幹システムの見直しを皮切りに**クラウドファースト、CRM構築、システム間連携、事業変化への適応性**などが重要な要点となります。企業成長を制約する要因である老朽化・複雑化されたシステムは早期に見直し、**持続的な成長に向けたシステムの再構築に着手**することが今後益々重要となります。

## ～おわりに～

本レポートをお読みいただき、誠にありがとうございました。

当日のセミナーでは、今知っておくべき

**100億企業への成長を加速させるためのIT再構築戦略**についてお伝えさせていただきます。

100億企業を目指していくには、

経営者の明確な意志とリーダーシップによる、

**適切な順序での本質的なIT戦略実行が不可欠**です。

それが実現すれば、

**組織を牽引する柔軟で強固なITシステム**が構築できます。

組織が効率的に機能し始めれば、経営者は戦略立案に専念でき、

100億企業化への**事業成長スピードは加速**します。

さらにシステムが高度化し、データが戦略的に活用できれば、

業務効率化・生産性向上・新規事業開発が連鎖的に進み、

企業成長に関する様々な課題が好循環に変わっていきます。

**将来に向けたシステム戦略の策定に向けてまたとないチャンス**

ですので、ぜひご参加いただければと思います。

当日、会場でお会いできることを楽しみにしております。

株式会社船井総合研究所  
執行役員  
DX支援本部  
本部長

清尾 修

